

6 3 6 1 - 8 9 6  
平成 1 8 年 1 1 月 2 8 日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 8 年度病害虫発生予報第 8 号について  
平成 1 8 年度病害虫発生予報第 8 号を発表したので送付します。

## 平成 1 8 年度病害虫発生予報第 8 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

### 発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
施設果菜類	タバココナジラミ類	多	2
冬春キュウリ	べと病	並	2
	うどんこ病	多	2
	褐斑病	並	2
	灰色かび病	並	3
	アザミウマ類	並	3
冬春ピーマン	斑点病	並	3
	うどんこ病	多	3
	アザミウマ類	多	3
冬春トマト	葉かび病	並	4
	斑点病	並	4
	トマト黄化葉巻病 (TYLCV)	-	4
	ハモグリバエ類	やや少	4
冬春イチゴ	うどんこ病	やや多	4
	ハダニ類	多	5
	アブラムシ類	やや多	5
カンキツ類	ミカンハダニ	並	5
チャ	カンザワハダニ	並	5

11月中旬の冬春キュウリは収穫初期、冬春ピーマンは収穫期、冬春トマトは収穫前～初期、冬春イチゴは収穫前、温州みかんはほぼ収穫終了、茶は秋整枝後であった。

### 1 2 月の気象予報

平年に比べて曇りや雨の日が多く、気温は平年より高い、降水量は平年より多い、日照時間は平年より少ないと予想されています。

( 1 か月予報 鹿児島地方気象台 1 1 / 1 7 発表 )

## 発生予報の根拠および防除対策

### 施設果菜類

#### 1 タバココナジラミ類（外コナジラミイタイプQ、シルバーリーフコナジラミ）（多）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 冬春キュウリでの発生面積率 63.2%（平成25.6%）、百葉当たり虫数 8.6頭（平成2.1頭）はいずれも平成より多である。
- 2) 冬春トマトでの発生面積率 83.3%（平成32.3%）は平成よりやや多、百葉当たり虫数 7.0頭（平成2.0頭）は平成より多である。
- 3) 冬春ピーマンでの発生面積率 61.5%（H17 38.5%、H16 36.4% H15 27.3%）、はこれまでの4か年で最も多い。

[ 防除上の注意 ]

- 1) タバココナジラミ バイオタイプQとシルバーリーフコナジラミの形態上の差異は成虫、幼虫ともに確認されておらず、両種の肉眼での区別は困難である。
- 2) タバココナジラミ バイオタイプQに効果のある殺虫剤が少ないことから、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- 3) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点からも同一薬剤の連用は極力行わず、ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発達の可能性が低いポタニガード乳剤等の微生物農薬や粘着くん液剤等のコナジラミを物理的に窒息死させる薬剤を防除体系に組み込む。
- 4) 施設栽培では防虫ネットを必ず設置するとともに、光反射マルチや近紫外線カットフィルム、黄色粘着板等の物理的防除手段を利用する。

### 冬春キュウリ

#### 1 べと病（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率 36.9%（平成29.0%）、発病葉率 3.1%（平成3.6%）はいずれも平成並である。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、平年に比べて曇や雨の日が多いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 湿度が高いときには多発しやすく、多発すると防除が困難となるので、予防散布に重点をおき発生が見られたら初期防除を徹底する。
- 2) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないように肥培管理に注意する。

#### 2 うどんこ病（多）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率 84.2%（平成38.6%）、発病葉率 11.7%（平成4.7%）はいずれも平成より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 病勢が進展してからでは防除効果が低くなるので、発病を確認したら早めに防除する。
- 2) 耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- 3) 乾燥時に多発するので、ほ場が過乾燥にならないように管理に注意する。

#### 3 褐斑病（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率 5.3%（平成13.8%）は平成よりやや少である。

- 2) 向こう1か月の長期予報では、平年に比べて曇や雨の日が多く、気温は平年より高い、降水量は平年より多いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多発してからの防除は困難なので、初期防除を徹底する。
- 2) 窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。
- 3) 下葉の老化した発病葉はほ場外に持ち出し処分する。

#### 4 灰色かび病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認(平年の発生面積率2.0%)である。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、平年に比べて曇や雨の日が多く、降水量は平年より多いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 曇雨天が続く時は、日中でも加温機を稼働させるなど除湿に努める。
- 2) 発生初期の防除を徹底する。なお、薬剤耐性菌が出現しやすいので、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

#### 5 アザミウマ類 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では、19圃場のうち4圃場で微発生が確認された。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、気温は平年に比べて高いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多発してからでは防除効果が低くなるので、低密度のうちに防除する。

### 冬春ピーマン

#### 1 斑点病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率15.4%(平年29.5%)、発病葉率0.2%(平年0.5%)はいずれも平年並みである。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、平年に比べて曇や雨の日が多く、降水量は平年より多いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多湿条件では発生した場合の被害も大きくなるので、除湿に努める。
- 2) 病原菌が侵入した後の防除効果は低いので、予防散布を行う。

#### 2 うどんこ病 (多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率76.9%(平年36.9%)は平年よりやや多、発病葉率11.2%(平年2.6%)は平年より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥させすぎないようにする。
- 2) 病勢が進展してからでは防除効果が低いので早期発見に努め、発病を確認したら早めに防除する。

#### 3 アザミウマ類 (多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬のミナミキイロアザミウマの発生面積率69.3%(平年47.2%)は平年よりやや多、10花当り寄生虫数3.3頭(平年1.6頭)は平年より多である。

- 2) 11月中旬のヒラズハナアザミウマの発生面積率46.2%（平成29.4%）は  
平成よりやや多、10花当り寄生虫数2.3頭（平成2.4頭）は平成並である。

[防除上の注意]

- 1) ミナミキイロアザミウマは10花当り寄生虫数が1頭から被害果が出始める。ま  
た多発してからは防除効果が低くなるので、低密度のうちに防除を徹底する。

## 冬春トマト

### 1 葉かび病（並）

[予報の根拠]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認（平成の発生面積率2.8%）である。

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。  
2) 発病初期の防除を徹底する。

### 2 斑点病（並）

[予報の根拠]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認（平成の発生面積率10.6%）である。

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。  
2) 発病初期の防除を徹底する。

### 3 トマト黄化葉巻病（TYLCV）（-）

[防除上の注意]

- 1) 栽培初期に発病し抜き取り処分した圃場が散見されるので注意する。  
2) 病原ウイルスを媒介するコナジラミ類（シルバーリーフコナジラミ及びタバココ  
ナジラミバイオタイプQ）の発生面積率83.3%（平成32.3%）は平成よりや  
や多、葉当り虫数7.0頭（平成2.1頭）は平成より多である。  
3) 黄色粘着トラップ等を設置し、コナジラミ類の早期発見に努めるとともに、栽培  
期間中を通して防除を徹底し、本虫の密度を抑制する。  
4) ハウスの開口部には必ず0.4mm以下の防虫ネットを設置する。  
5) 施設内外の雑草はコナジラミ類の寄主となるので除草を徹底する。また、施設内  
では栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等は栽培しない。  
6) 発病株は伝染源になるので、根ごと抜き去り、土中に埋めるかビニル袋に入れて  
枯れるまで密閉する。ウイルスは植物全体に存在しているので発病部位を除去して  
も伝染源になるため、必ず株全体を除去する。

### 4 ハモグリバエ類（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 11月中旬の発生面積率25.0%（平成39.5%）、寄生葉率1.3%（平成  
2.6%）はいずれも平成よりやや少である。

[防除上の注意]

- 1) 多発してからの防除効果は低いので初期防除に努める。

## 冬春イチゴ

### 1 うどんこ病（やや多）

[予報の根拠]

- 1) 11月中旬の発生面積率33.3%（平成24.1%）は平成よりやや多、発病葉  
率2.8%（平成4.0%）は平成並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 葉裏に発生しやすいので早期発見に努め、初期防除を徹底する。
- 2) 激しく発病すると防除効果が低くなるので、予防に重点をおき、発病後は散布間隔を短くするなど発病初期の防除を徹底する。
- 3) 発病果など被害部は伝染源になるので早めに取り除きほ場内に放置しない。

## 2 ハダニ類 (多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生面積率66.6%( 平年26.0%)は平年より多、寄生株率15.8%( 平年7.6%)は平年よりやや多である。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、気温は平年より高いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 収穫期に寄生数が増加してからの防除は困難なので、低密度時から防除を徹底する。
- 2) 株整理後の葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。茎葉繁茂時には散布圧を強めて、葉裏に良くかかるように散布する。
- 3) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ - テ - ション散布を実施する。

## 3 アブラムシ類 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率41.6%( 平年24.4%)は平年よりやや多、寄生株率3.8%( 平年3.6%)は平年並である。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、気温は平年より高いと予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 開花期に薬剤を使用する場合は十分注意し、ミツバチに影響の少ない薬剤を寄生株とその周辺に部分散布する。
- 2) 株整理後の葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。茎葉繁茂時には散布圧を強めて、葉裏に良くかかるように散布する。

## カンキツ類

### 1 ミカンハダニ (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率55.0%( 平年57.4%)は平年並、寄生葉率12.6%( 平年18.8%)は平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 冬季のマシン油乳剤の防除効果は高いので実施する。
- 2) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ - テ - ション散布を実施する。

## チャ

### 1 カンザワハダニ (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率30.8%( 平年43.5%)、寄生葉率2.3%( 平年2.8%)はいずれも平年並みである。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ - テ - ション散布を実施する。

## その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。  
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>  
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>  
農薬検査所ホームページ <http://www.acis.go.jp/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。  
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。
- 3 発生量（程度）の区分  
多 い （高 い） やや多いの外側 10%の度数の入る幅  
やや多い （やや高い） 平年並の外側 20%の度数の入る幅  
平年並 平年値を中心として 40%の度数の入る幅  
やや少ない （やや低い） 平年並の外側 20%の度数の入る幅  
少ない （低 い） やや少ないの外側 10%の度数の入る幅  
(平年値は過去 10 年間の平均)
- 4 予察情報の種類  
病虫害防除・肥料検査センターから発表する情報は次の 5 つです。
  - 1) 予報・・・向こう 1 か月の発生状況を予測し、毎月 25 日前後に発表する。
  - 2) 注意報・・・主要な病虫害の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
  - 3) 警報・・・主要な病虫害の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
  - 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病虫害がある時や、病虫害の発生様相が特異な時に発表する。
  - 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病虫害の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

## お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

### 【文書取扱】

病虫害防除・肥料検査センター 榎間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp